

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	デイサービスセンター ケヤキ			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 5日 ~ 令和8年 1月 23日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 5日 ~ 令和8年 1月 23日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	障がい者支援施設が母体となる為、強度行動障害を含めた対応が可能。また、本体施設と連携している事で宿泊の練習、ケヤキ休業日の一時支援での対応が可能である。	強度行動障害を含めた重度知的障害の対応にあたっての相談に対しては、現状に關係なく相談の受付、対応に向けての方法を検討しています。	早い段階からの相談の受付、児童発達支援センター等との連携を重視、適切に福祉サービスが利用できるよう、今後も取り組んでいきます。
2	小学校から高校生まで幅広く対応する事で成長過程を把握、適切な対応が可能となっている。また、保育士の増員により、より専門的な支援の提供が出来る環境が整っている。	年代に關係なく参加できる集団活動や行事などを開催、全体が一体となり進める事が出来るように配慮している。	集団活動や行事など選択肢を増やし、様々な経験を積み重ねていける環境を整えていきます。
3	広々とした活動スペースがある事で年代にあった取り組み、また、個々に合わせた活動が可能。運動なども取り入れやすい空間となっている。	個室以外は死角がなく、どこにいても全体が見渡せるよう配置。また、走り回るなどの運動空間や本を見るなどの空間などを設定している。	利用児童に合わせ、室内をレイアウト、楽しく学び、遊べる空間を整えていけるよう、今後も取り組んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内での取り組みに関しては充実しているが、野外活動に関する取り組みが少ない。	男子職員の採用など職員配置に関する体制を整える事が出来ている事から、次年度より計画的に野外活動も取り入れて行ければと考えている。	スケジュールの見直しを実施する。各学年により下校時間の違いや帰宅時間の違いがある事から、できる範囲内で調整を実施しながら偏りがないように配慮が必要と思われる。
2	幅広い年代、様々な障がいをもった利用児を受け入れている事で、地域との結びつきでの対応が遅れていると感じる。	地域との児童館との繋がりに関して、1事業所としての取り組みが難しい。受け入れ先がなく現実的に難しいと感じる。	現行通り地域の公園等の利用など社会資源を活用した地域との繋がりを継続しながら、他事業所の取り組みも参考に検討していきます。
3	支援現場での本人の見学、相談やアドバイスの実施などは行なっているが、ペアレントトレーニングに関しての対応が遅れている。	ペアレントトレーニングの研修に関して、複数名での参加が条件であったり、研修自体少ないと感じる。	ペアレントトレーニングに関する研修への参加。また、センター内の家族支援の充実に向けた専門性を高める為の研修会を企画、情報提供と共に幅広く相談の受付ができるよう対応していきたい。